

調査研究の要約

1. 調査対象

青少年調査として、小学 5 年生 2860 名、小学 6 年生 2830 名、中学 2 年生 2480 名、高校 2 年生 2844 名 計 11,014 名

成人調査として、20 代～60 代各年代で男女各 500 名 計 5,000 名

2. 調査方法及び時期

青少年調査は、学校を通じた郵送法による質問紙調査(平成 21 年 11 月 27 日～12 月 18 日実施)

成人調査は、ウェブアンケート調査(平成 21 年 11 月 13 日～16 日実施)

3. 青少年調査結果

青少年調査結果①

幼少期から中学生期までの体験が多い高校生ほど、思いやり、やる気、人間関係能力等の資質・能力が高い。

■幼少期から中学生期までに「動植物とのかかわり」、「地域活動」、「家事手伝い」等の体験が豊富な高校生ほど、「友だちがとても幸せな体験をしたことを知ったら、私までうれしくなる」といった「共生感」、「経験したことの無いことには何でもチャレンジしてみたい」といった「意欲・関心」、「けんかをした友だちを仲直りさせることができる」といった「人間関係能力」が高い。

青少年調査結果②

小学校低学年までは友だちや動植物とのかかわり、
小学校高学年から中学生までは地域や家族とのかかわりが大切。

■高校 2 年生の結果から、各年齢期において「体験の力」との関係が見られた体験は以下のとおりである。

- ・小学校低学年までは「友だちとの遊び」「動植物とのかかわり」等
- ・小学校高学年から中学校までは「地域活動」や「家事手伝い」、「家族行事」、「自然体験」等

青少年調査結果③

体験が豊富な子どもほど、携帯電話を持っている・読む本の冊数が多い、という割合が高い。
また、コンピューターゲームやテレビゲーム遊びをしない、という割合が高い。

■幼少期から現在までの体験が豊富な子どもほど、携帯電話を所持する割合が高く、1 ヶ月に読む本の冊数が多くなる傾向がみられる。

■幼少期から現在までの体験が豊富な子どもほど、コンピューターやテレビゲーム等のゲーム遊びの頻度が少ないという傾向がみられる。

青少年調査結果④

幼少期から小学生期までの「自然体験」、「動植物とのかかわり」、「友だちとの遊び」は、高校生より中学生の方が少ない。

幼少期から小学生期までの「家族行事」は、高校生より中学生の方が多い。

■「海や川で貝を採ったり魚を釣ったりしたこと」といった「自然体験」,「野鳥を見たり, 鳴く声を聞いたこと」といった「動植物とのかかわり」,「かくれんぼや缶けりをしたこと」といった「友だちとの遊び」を小学生までに体験している割合は, 中学 2 年生よりも高校 2 年生が多い。一方,「家族の誕生日を祝ったこと」といった「家族行事」を小学生までに体験している割合は, 中学 2 年生よりも高校 2 年生の方が少ない。

4. 成人調査結果

成人調査結果①

子どもの頃の体験が豊富な大人ほど, やる気や生きがいを持っている人が多く, モラルや人間関係能力が高い人が多い。

■子どもの頃の「自然体験」や「友だちとの遊び」,「地域活動」等の体験が豊富な人ほど,「経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい」といった「意欲・関心」や,「電車やバスに乗ったときお年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う」といった「規範意識」,「友だちに相談されることがよくある」といった「人間関係能力」が高い。

成人調査結果②

成人の結果においても, 小学校低学年までは友だちや動植物とのかかわり, 小学校高学年から中学生までは地域や家族とのかかわりが大切。

■各年齢期において「体験の力」との関係が見られた体験は以下のとおりである。
・小学校低学年までは「友だちとの遊び」「動植物とのかかわり」等
・小学校高学年から中学校までは「地域活動」や「家事手伝い」,「家族行事」,「自然体験」等

成人調査結果③

子どもの頃の体験が豊富な大人ほど,「丁寧な言葉を使うことができる」といった, 日本文化としての作法・教養が高い。

■子どもの頃の体験が豊富な人ほど,「丁寧な言葉を使うことができる」といった「文化的作法・教養」が高い。そして,「文化的作法・教養」5 項目は, 体験の6つのカテゴリ*すべてと幅広く関係している。

※体験のカテゴリ:「自然体験」・「動植物とのかかわり」・「友だちとの遊び」・「地域活動」・「家族行事」・「家事手伝い」

成人調査結果④

子どもの頃の体験が豊富な大人ほど, 学歴が高い・収入が多い・読む本の冊数が多い・結婚している・子どもの数が多い, という割合が高い。

■子どもの頃の体験が豊富な人ほど, 最終学歴が「大学や大学院」と回答した割合が高く, その他, 現在の年収が高かったり, 1ヶ月に読む本の冊数が多くなる傾向がみられる。

■子どもの頃の体験が少ない群より多い群の方が, 結婚している割合が高い。さらに, 子どもが 2 人以上いると回答した割合が高い。

成人調査結果⑤

自然体験や友だちと遊ぶ体験は若い世代ほど少ない。
幼少期の家族行事の体験は若い世代ほど増えている。

- 「夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと」といった「自然体験」, 「すもうやおしくらまんじゅうをしたこと」といった「友だちとの遊び」が若い世代ほど少ない。一方, 幼少期での「家族の誕生日を祝ったこと」といった「家族行事」は若い世代ほど増えている。

成人調査結果⑥

「規範意識」, 「人間関係能力」, 「職業意識」, 「文化的作法・教養」は, 世代が上がるほど高まる。

- 「お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う」といった「規範意識」, 「友達に相談されることがよくある」といった「人間関係能力」, 「できれば, 社会や人のためになる仕事をしたいと思う」といった「職業意識」等の「体験の力」は, 年代が上がるほど, 得点が高くなる傾向がみられる。